

著書「絵はコミュニケーション」燦葉出版社, 1998

目次とあとがき

3 回目の個展が始まる	17
娘と猫の関係	25
誕生から障害認知へ	29
（1）病院通い	31
（2）室田洋子先生との出会いと杉並時代	33
済美教育研究所	33
浜田山キリスト教幼稚園	36
杉並区立大宮保育園	38
入学準備	41
小学校時代	
発病	47
自転車大好き、1年1組大好き	50
のがわ学級開級	54
放課後の過ごし方	56
回復があれば成長がある	60
小林時平先生のこと	62
成長の広がり	65
思春期の到来	69
進路の悩み	72
家庭のざわつきと再出発、そして油絵との出会い	73
中学校時代	77
不安と緊張の連続	79
絵の力	80
嵐が来た	82
絵に励まされる	84
高等部時代	87
母親が働くこと	89
心の扉を開ける	91
母との同居	94
「他傷行為」といろいろな経験	96

卒業は誰にでも来る 101

作業所時代 107

あこがれの社会人、祖母の死 109

大改革 109

新しい絵の先生 113

仲間と家族と、これからのこと 114

ねがい 田中愛子 116

何からやればいいのか 117

障害の意味 121

4歳（浜田山キリスト教幼稚園）連絡帳より 127

朝の自由 127

2学期の終わりまで 127

5歳（大宮保育園）連絡帳より 129

のがわ学級5年（11歳）連絡帳より 130

のがわ学級最後の日 小学6年 連絡帳より 131

大宮保育園時代に、緑色の絵の具で描いた絵 133

のがわ学級の絵の時間に描いたもの 134

すべて小学2年（8歳）

「瑞木...ほんとにありがとうね」

青葉学園短期大学教授 臨床心理士 室田洋子 137

(1) 人とのかかわりの困難 139

(2) ことばの異常 139

(3) 同一性保持への強迫的な不安行動 140

(4) 物に対しての同一性保持の関係 140

(5) 潜在的認知力の存在 140

あとがき 143

私は、日本海のそばで育ちました。

春、暖かな風に吹かれたとき、海も背伸びをしているように見えました。夏、ほてった体を波に包ませ、青い空と白い入道雲をいつまでも目で追ったあの日のこと。秋、海水浴客が帰った後の浜辺を、ひとり歩くのが好きで帰宅が遅れ、母にしかられました。冬、季節風が荒れ狂い、10メートル以上の高波が赤い灯台を飲み込みます。ドキドキしながらあきずに眺めていました。今でも鮮やかに、海のシーンが蘇ります。

東京では、近くに大好きな海はありませんでした。しかし、私は夫と出会い、二人の子どもに恵まれました。一人目は障害を持つ子ども、瑞木。二人目は健常な子ども、海到。私にとって、子どもは海と同じようでした。嵐のときは、私に試練を与え、強く生きることを教えてくれました。穏やかなときは、私に至福の喜びをもたらし、私の心を癒し、世界は広いと気付かせてくれました。

このたび、娘とともに生きてきた、私たち家族の今までを記す機会に恵まれ、自分というものを再び見つけることができました。孤独な仕事でしたが、充実していました。やっと娘の展覧会に間に合うことになり、今は安堵の気持ちでいっぱいです。

先日「お母さんはこの本で何を一番言いたいのか？」と海到に尋ねられました。「この拙著により、障害の意味を理解し、“ありのままの姿で生きることの尊さ”を知り、ともに生きようとする力がそれぞれに湧きでてくることを、一番にのぞみます」、これが私の、その答えです。

室田洋子先生、佐々木時雄先生、三輪龍作先生、西村一郎様、本間俊典様、高安幸子様、三谷一郎様、三谷友加様、白井隆之様には、この本の出版にあたり、大変お世話になりました。それから家族の学而さん、瑞木さん、海到さんにもお世話になりました。

これまで、たくさんの人々に支えられ、お世話になり、歩いてきました。この場を借り、みなさまに厚くお礼申し上げます。「ありがとうございました。これからも、どうぞよろしくおねがいいたします。」

1998年3月

田中愛子

絵はコミュニケーション

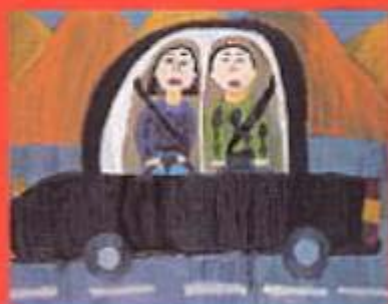


田中愛子・著 田中瑞木・絵

田中愛子・著 田中瑞木・絵

障害を持ちつつ絵に向かう瑞木ちゃんと、ともに歩いてきた家族の記録。「山あり谷あり」でもくじけず希望を持ち、素直に生きる勇気が伝わってくる。読後、不思議なことに自分も瑞木ちゃんと生きて来たような気がする。 陶芸家 三輪龍作

ISBN4-87925-041-4 C0071 ¥1900E (税+別)
定価(本体1930円+税)



田中端本さんは、私たちに、可能性を切り開く希望と、人が育つということへの限りない畏敬の念と、人々が、知恵と配慮と忍耐と、喜びを分かちあいつつ、かかわる力のすばらしさを証明しつづけてくれる人です。
彼女と、ご家族の生き方を知ることにより、この国の中で、どれほど励まされる人たちがいることかと、私は思います。

音楽学園短期大学教授 臨床心理士 室田 洋子